2021年度　　事業報告書（グループホーム）

施設長　　　山本靖雄

　　グループホームでの暮らしの主体者は利用者であり、また、夫々が地域の一員として共に暮らす場であり、本人の思いを大切にしながら、支援者として寄り添う事を基本としている。

　利用者の方々も、夫々年齢も進み、心理的にも身体的にもいろいろ状況変化し、その都度支援者としての対応も多様となっている。更に、今年度はコロナ禍であるという事も重なり、利用者、支援者共に心身ともにストレスが溜まる状況であった。それぞれの思いやニーズを聴き取り、適宜対応し日々のスムーズな運営に心がけた１年であった。

（施設の運営状況について）

今年度５月より、富雄ハウスの事業をそのまま変更せず、高山ハウスへ移行した。

　・若葉ハウス　　　定員5人　　利用者５人満床　　　支援者：７人

・秋篠ハウス　　　定員4人　　利用者４人満床　　　支援者：７人

・高山ハウス　　　定員6人　　利用者６人満床　　　支援者：７人　　　　　（３事業所で一部重複あり）

　専従職員１名（管理者兼施設長）

　支援員の方々においては、障害特性の理解や、ひとり一人とのコミュニケーションの取り方等についても研修を行い、定期的な会議の中での相談及び、情報の共有等を実施してより良い支援につなげている。

・２月より、夕食を食材配食会社『ヨシケイ』から食材を取り寄せることで、メニューの多様化とカロリー等も可視化できる状態での提供につながった。併せて支援者の負担軽減にもなっている。

（利用者支援について）

・相談支援作成のサービス等利用計画に基づく、個別支援計画を作成して支援の基本としている。

・利用者の意思を尊重し、個性を大切にして自分らしい生活が送れるようその人の所属している他

機関（生活介護事業所、就労先等々）とも連携を図り支援を行っている。また、医療機関受診、服薬管理、必要な利用者に関しては金銭管理も行っている。

・日常生活上、自分で出来る事は自分で行うという事を基本にし、必要に応じて日常生活の支援を行う。（洗濯・掃除・入浴・歯磨き・食事介助・身だしなみ等）

・余暇活動においては、外部のヘルパー事業所等との連携を取り、本人の希望につなげている。

・特にコロナ感染予防に対しては、検温の励行、手指の消毒、マスクの着用、衛生的な環境の徹底等を実施すると共に、人込みへの外出自粛をお願いして感染予防に繋げた。また、職場等での感染の疑いのある場合は、一時的に個室対応にて支援し、防護服にての緊急対応も必要となった。また、ほぼ１年間、各自部屋食として対応し、コロナ感染の予防に努めている。

・予防接種後の状態を確認し、利用者の不安を除くための見守りも重要となった。

・今後もこういった状況は続くと思うが、メンバー・ご家族・スタッフ（世話人・生活支援員）の精神状態を特に配慮して行きたいと考えている。

　◎特に大きな問題が起こらなかったことが、何より安心した支援の継続的提供につながっている。利用者や

　　支援者間の連携を強め、利用者ひとり一人が自分らしく生活できる場としていきたい。